

大津波やM9 想定却下

福島原発 設計者ら証言

「女川や柏崎、同じ弱点」

東日本大震災による大津波が発端となり、世界有数の原発事故を起こした東京電力福島第一原発。その設計や安全性の検証を担った東芝の元社員二人が本紙の取材に応じ、「設計時は、これほどの津波は想定していなかった」と証言した。東電の想定していた津波は最高で五・五メートル。実際には倍以上高い十四メートルを上回る大津波が押し寄せており、二人は設計に想定のがさがあつたと口をそろえる。

＝③面に詳報

取材に応じたのは、震が原因でタービンが一九七〇～八〇年ごろ壊れて飛んで炉を直撃する可能性を想定し、同原発の安全性を検証した元技術者の男性(六三)と、七一年から順次稼働した同原発1～3号機と、5～6号機の設計に加わった元設計者の男性(六七)。

タービンの安全性の検証に携わった元技術者は、原発の設計図の青焼きを見ながら「今回のような大津波やマグニチュード(M)9

は、想像もできなかった」と振り返った。元技術者は事故や地

この可能性の低い事故は想定からとんと外された。計算の前提を変えれば結果はどうでもなる」と、想定のがさを懸念する。

元設計者は六七年、東芝に入社。日本の原発黎明期に原子力機器技術部に配属され、七一年から順次稼働した福島第一原発1～3号機と、5～6号機の設計に参加した。原子炉周りの残留熱を除く熱交換器や、海水ポンプの設計に携わった。

元設計者は「当時は『M8以上の地震は起きない』と言われ(十メートルを超えるような)大津波は設計条件に与えられていなかった」と証言。

「女川や柏崎刈羽など、ほかの原発でも、非常用電源などでは同様の弱点を持つ」と指摘した。

だが上司は「千年に一度とか、そんなことを想定してどうなる」と一笑に付したという。

元技術者は安全性を検証して報告したが、建設時にどう反映されたのか知らない。「起